

広島市郊外の住宅団地の住民の交通に関する意識の調査研究*

The study for an attitude survey for transportation at residential area in HIROSHIMA city *

大東延幸**・今井隼平***・田中晶生***

By Nobuyuki OHIGASHI**・Junpei IMAI ***・Akio TANAKA***

1.はじめに

高度経済成長期に開発された郊外住宅団地は、同じコーホートの住人が多く、一斉に高齢化を迎えることが多い。いつまでもマイカーで行動することが困難になる住民が増える可能性があり、ピークが少ない交通である買い物交通の手段が確保されなくなる可能性もある。住宅地の存続を考えるなら、マイカー以外の買い物交通手段を確保する必要がある。

本研究は、広島市近郊の上記のような住宅団地である、美鈴が丘住宅団地と彩が丘住宅団地を対象として、住民の交通の実態と交通に対する意識調査を行い比較研究を行った。調査対象は、日常的な買い物や通院をしている方を対象とし、配布方法は、自治会を通して各街区、全丁目に配布・回収を行なった。調査概要は、表-1に示す通りである。

表-1 調査概要

調査対象	美鈴が丘団地	彩が丘団地
調査の種類	アンケート調査	
調査期間	平成18年4月～7月上旬	平成18年11月～2月上旬
配布枚数	3626部(全世帯)	1250部(全世帯)
回収枚数	2105部	522部
回収率	58.10%	41.76%
調査内容	・調査対象者の属性 ・自動車免許、自家用車の保有状況 ・買物交通時の移動実態 ・現公共交通に関する住民の意識 ・巡回バス導入に関する住民の意識 ・自由意見欄	

2. 調査対象の住宅団地とバス停について

調査対象の住宅団地内のバス停の位置と、バス停から道なりに400mの範囲を図-1 図-2に示す。美鈴が丘住宅団地では宅地の約半数がバス停から道なりに400m以上だが、彩が丘住宅団地では全宅地がバス停から道なりに400m以内に立地している。

*キーワード：地区交通計画、公共交通計画、

**正員、工修、広島工業大学工学部建設工学科

(広島市佐伯区三宅2丁目-1-1、

TEL082-921-3121、FAX082-921-8934)

***学生員、広島工業大学大学院

(広島市佐伯区三宅2丁目-1-1

TEL082-921-3121、FAX082-9218934)



図-1 バス停から400mの範囲(美鈴が丘住宅団地)

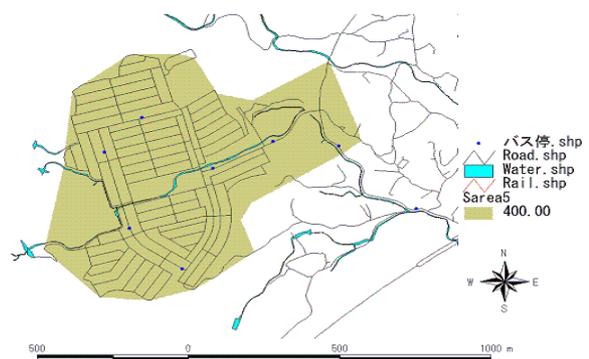


図-2 バス停から400mの範囲(彩が丘住宅団地)

3. 調査結果

(1) 住宅団地内の交通の現状

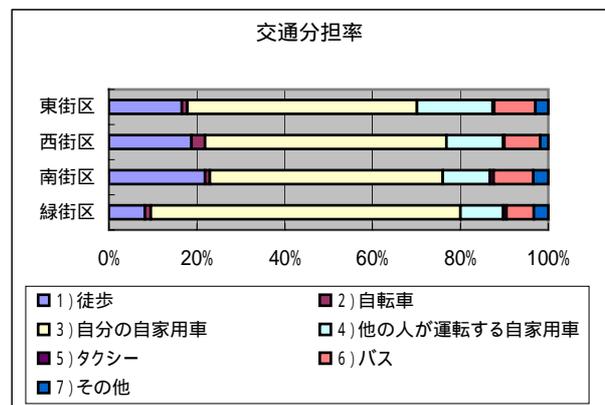


図-3 交通分担率(美鈴が丘住宅団地)

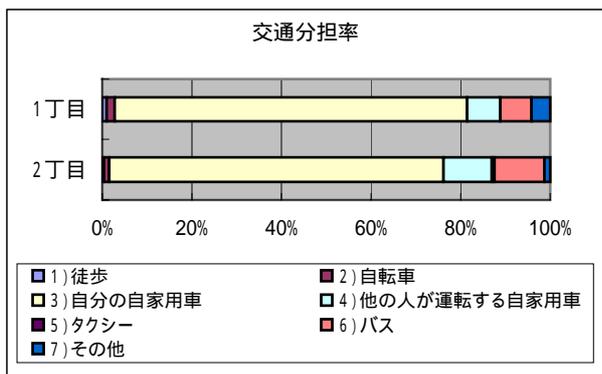


図-4 交通分担率 (彩が丘住宅団地)

交通分担率について図-3 図-4 に示す。美鈴が丘住宅団地では「自分が運転する自家用車」「他人が運転する自家用車」を合わせると東・西・南街区では60%を越え、緑街区では80%を越えている。彩が丘住宅団地では、どちらの丁目も80%前後であり、両住宅団地共に住民の交通手段はマイカー主体である。

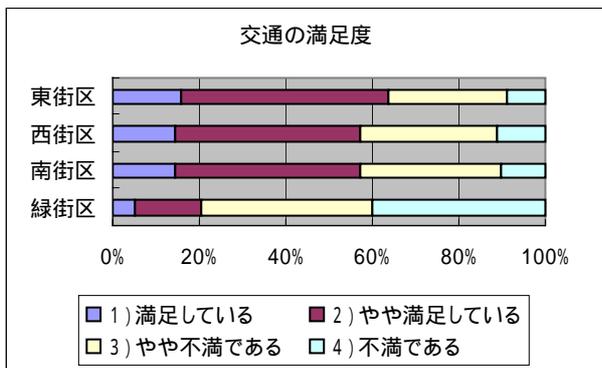


図-5 公共交通満足度 (美鈴が丘住宅団地)

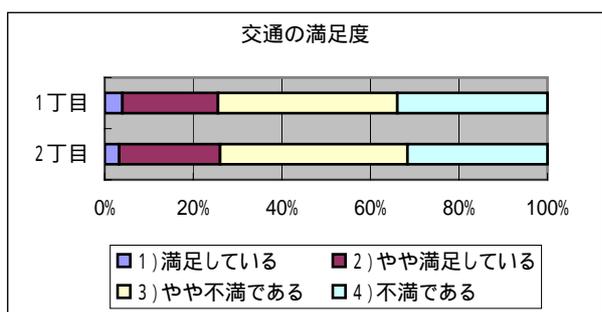


図-6 公共交通満足度 (彩が丘住宅団地)

現在の住宅団地内の交通全般に対する満足度について図-5 図-6 に示す。

美鈴が丘住宅団地の東・西・南街区では、「満足・やや満足」の解答が約60%、「不満・やや不満」の解答が約40%であった。しかし、緑街区では「不満・やや不満」の解答が約80%であった。

また、彩が丘住宅団地では、「不満・やや不満」と約80%の住民が回答した。この結果の理由として、美鈴が丘住宅団地では緑街区のみが既存のバス停からの距離が遠い。また、彩が丘住宅団地では、バス停の位置は近いが、バスの便数が少ない事が理由であることが考えられる。

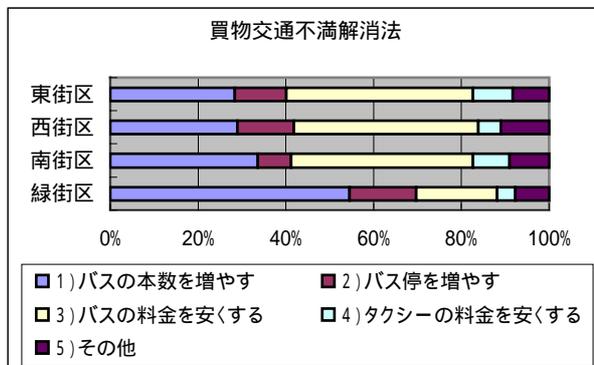


図-7 買い物交通不満解消方法 (美鈴が丘団地)

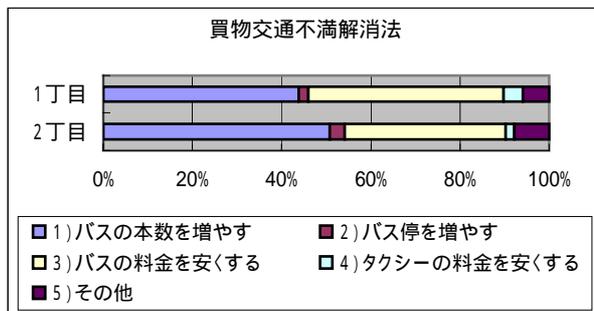


図-8 買い物交通不満解消方法 (彩が丘住宅団地)

住民が希望する買い物交通に対する不満解消の意見を図-7 図-8 に示す。美鈴が丘住宅団地の東・西・南街区では「バスの料金を安くする」「バスの本数を増やす」という回答が多くみられた。それに対し、緑街区では圧倒的に「バスの本数を増やす」という回答が多く見られた。また、彩が丘住宅団地でも、美鈴が丘住宅団地の緑街区と同様の傾向が見られた。

この結果の理由として、美鈴が丘住宅団地では緑街区のみが既存のバス停から遠く、彩が丘住宅団地では、バス停の位置は近いがバスの便数が少ない事が理由である事が考えられる。

(2) 巡回バス導入に対する住民の意識

次に、「もし巡回バスを走らせるとしたら」という質問を行なったところ、図-9 図-10 のようにどちらの住宅団地でも「是非使ってみよう」、「便利であれば使ってみよう」を合わせると、80%を超える回答が得られた。

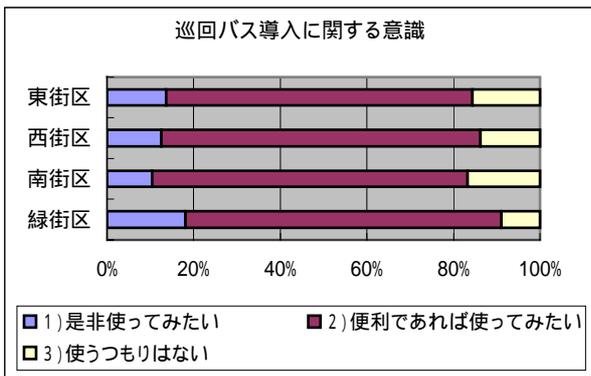


図-9 巡回バス導入に関する意識 (美鈴が丘住宅団地)

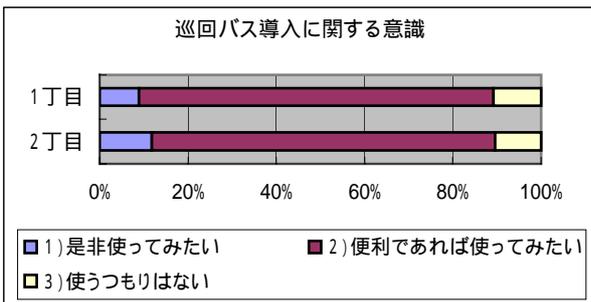


図-10 巡回バス導入に関する意識 (彩が丘住宅団地)

自由意見欄の中で最も意見が多かった「バス運行時間及び頻度の見直し」に関する意見であった。この「バス運行時間及び頻度の見直し」に関する意見の数の割合について、両住宅団地内の街区・丁目別に示したものを図-11 図-12 に示す。美鈴が丘住宅団地では、他街区に比べ緑街区の回答数割合がやや多く、彩が丘住宅団地では、2 丁目やや多いが、特定の街区・丁目が極端に割合が違う事はなかった。

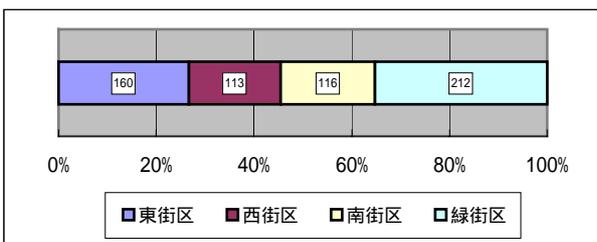


図-11 「運行時間及び頻度の見直し」の意見の割合 (美鈴が丘住宅団地)

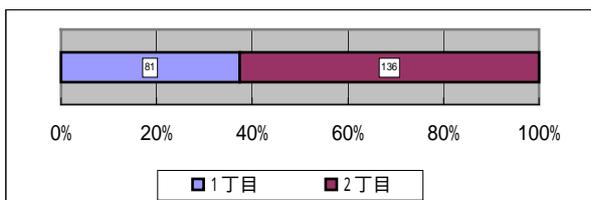


図-12 「運行時間及び頻度の見直し」の意見の割合 (彩が丘住宅団地)

(3) 巡回バスに対する住民の望む条件

どちらの住宅団地の住民もこれまでの調査結果から、マイカーに依存しているものの、便利な交通手段を望んでいることがわかった。美鈴が丘住宅団地では、かつてこの住宅団地が作られた際に、団地内を巡回するバスが計画されながら諸事情で実現せず現在にいたっている。また、隣接する他市の同じような住宅団地を巡回する、その市が運営するワンコインバスがあり、調査対象住宅団地の自治会はこれらの事を良く知っている。

そこで、住民が希望する巡回バスのサービスレベルを求めため、以下のような設問を行った。

「巡回バスの料金は、料金が均一料金の場合、いくらが妥当か?」という質問を行ったところ、次の図-13 図-14 のような結果となった。

美鈴が丘住宅団地では全ての街区で「100 円」という回答が最も多く、次いで「100 円～150 円」が多かった。彩が丘住宅団地では、全ての丁目「100 円」「100 円～150 円」の割合は、美鈴が丘住宅団地より少ないが、200 円未満までの割合の合計ではほぼ同じとなった。全般に彩が丘住宅団地の方が高め運賃を妥当と考えている割合が多い結果が出たが、これは彩が丘住宅団地では、美鈴が丘住宅団地と異なり、運行頻度は少ないが宅地がバス停に近く、既存のバスの値段(最寄鉄道駅から 350 円)という値段も影響していると考えられる。

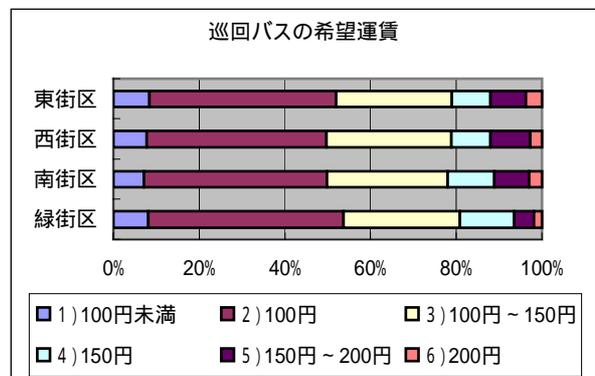


図-13 巡回バスの希望運賃 (美鈴が丘住宅団地)

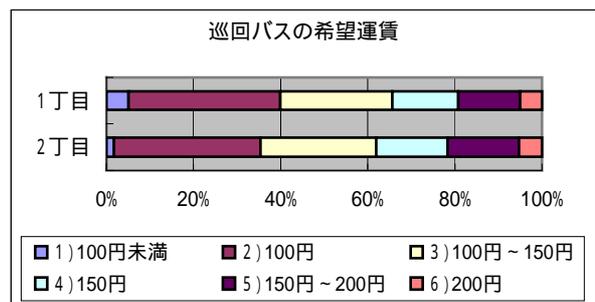


図-14 巡回バスの希望運賃 (彩が丘住宅団地)

「巡回バスの運行頻度は、1時間に何本ぐらいが妥当か？」という質問を行ったところ、以下の図-15 図-16 のような結果となった。両住宅団地共に、全ての街区・丁目で「1時間に2本」という回答が最も多く、次いで「1時間に3本」が多い回答を得た。巡回バスの運行頻度は1時間に2本か3本程度が望ましいと考えていることがわかった。

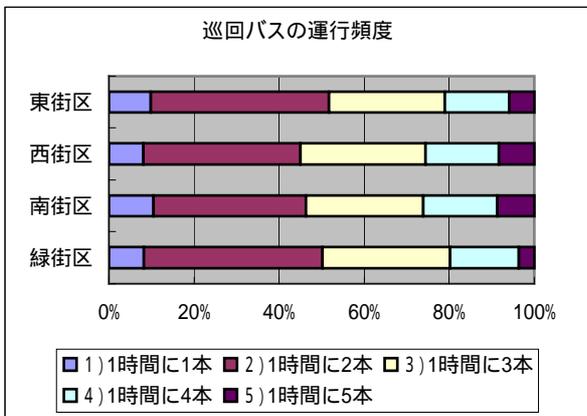


図-15 巡回バスの運行頻度 (美鈴が丘住宅団地)

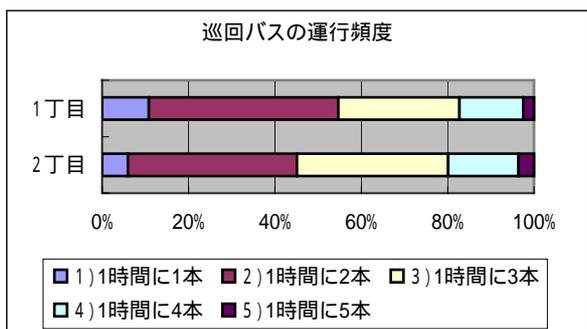


図-16 巡回バスの運行頻度 (彩が丘住宅団地)

バス停までの距離を示す、「巡回バスのバス停までの距離は何分程度が妥当か？」という質問を行ったところ、図-17 図-18 のような結果となった。両住宅団地を比較すると、全般的には全ての街区・丁目で「3分程度」「5分程度」を合わせると約90%程度の回答が得られたが、美鈴が丘住宅団地の方がやや遠いバス停を容認している様である。ここからバス停の位置は歩行速度を分速80mと仮定すると、自宅からおよそ240~400mまでの距離に設置されることが望ましいと分かった。この結果の理由として、2節でも述べたように、彩が丘住宅団地では、全ての宅地の約半数がバス停から道なりに400m以内に立地しており、住民は現状にほぼ満足していると考えられる。しかし美鈴が丘住宅団地では、宅地の約半数が最寄バス停から道なりに400m以上にあり、更に緑街区ではほとんどの宅地が既存のバス停から

道なりに400m以上であり、宅地に近いバス停が望まれていることが明らかになった。

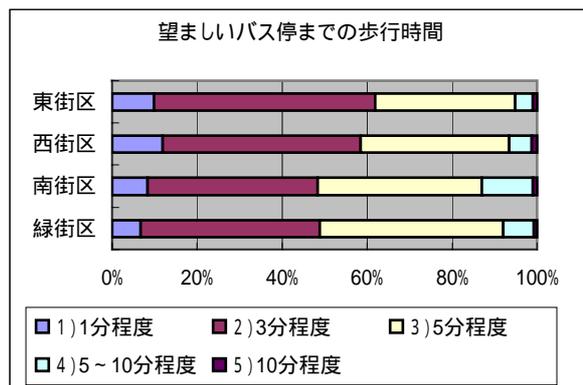


図-17 望ましいバス停までの歩行時間 (美鈴が丘住宅団地)

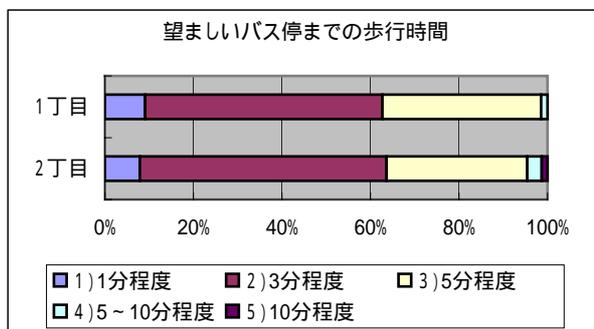


図-18 望ましいバス停までの歩行時間 (彩が丘住宅団地)

4. まとめ

両住宅団地共に、日常的な買い物目的地である最寄の団地外商業施設まで、既存のバスでは200円から300円程度の運賃であり、ラッシュ時以外の日中の運行頻度もほぼ1時間に一本で利便性が高いとはいいがたい。彩が丘住宅団地は、前述のように全ての宅地がバス停から道なりに400m以内であるが、これだけではバスのサービスレベルが高いとはとてもいえず、美鈴が丘住宅団地・彩が丘住宅団地、共に買い物交通に関してマイカーの利用が高い。

しかしながら、両住宅団地の住民は共に巡回バスを導入することについては賛成の意識が高い。更に求めるサービスレベルについても、運賃は現状のバスの運賃より安い100円、もしくは100円~150円を、バス停は歩いて5分以内で、1時間に2から3本の頻度での運行を望んでいる事が明らかとなった。

今回の研究にあたって、調査にご協力いただいた、美鈴が丘住宅団地と彩が丘住宅団地の自治会の皆様方と住民の皆様方に感謝いたします。